

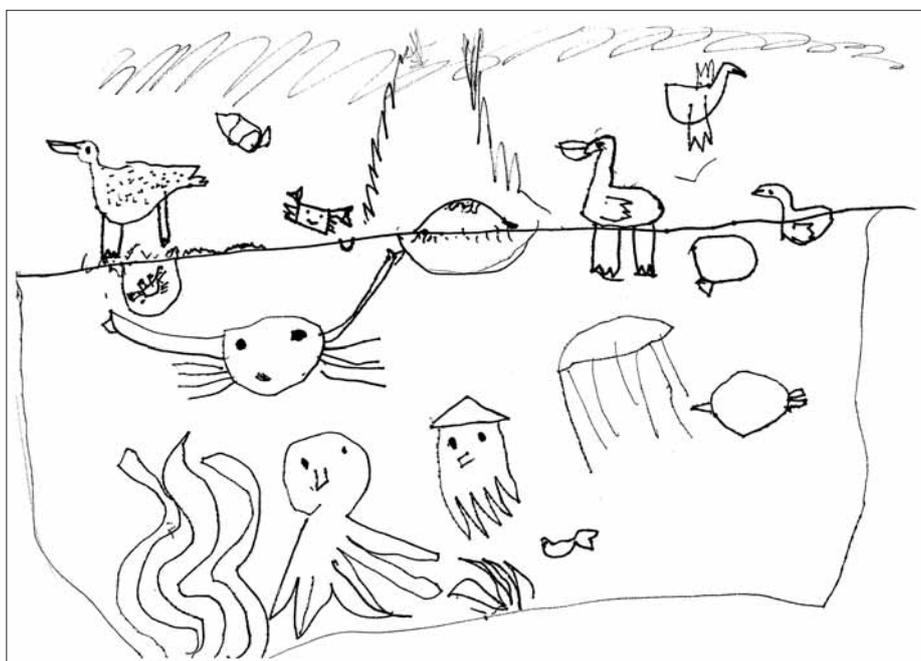
和白干潟通信

愛して、わじろ



No.145

2023年4月11日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>



「香椎保育所」さくら組の子どもの絵「わじろひがたはたのしいね」

ご案内

★ 第25期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 ★

「和白干潟の楽しさ再発見の観察会！」

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っており、干潟の生きものが豊富で、渡り鳥の渡来地にもなっています。沿岸が開発されていないため、海底湧水が湧いていると言われています。和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを観察会を通して伝えています。和白干潟の観察会のガイドを育成するための講習会を開催します。室内とフィールドでの講習があり、自然を体験して学習します。参加をお待ちします。（初心者歓迎）

と き：5月7日（日）受付12:30 開始13:00～17:00

雨天決行 中潮 干潮16:44 満潮 10:17

集合：和白干潟を守る会 事務所（福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階）

講師：清野 聡子 氏：九州大学大学院 環境社会部門准教授

参加費：300円 募集：20名

持ち物：筆記具、飲み物、双眼鏡（あれば）

服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴、（雨具）

主催：和白干潟を守る会

お問い合わせ：TEL 090-8412-2663（山之内）

室内講義もありますのでマスク着用をお願いします。



和白干潟の観察会

2023年度 和白干潟を守る会 総会報告 (今林 眞由美)

主な役員と事務局組織

2月25日に2023年度総会を開催しました。参加者は14名、山本代表が「和白干潟を守る会の活動は34年を過ぎました。コロナ禍で行動が制限された中でも感染対策をとりながら、鳥類調査やクリーン作戦を続けることができ、ガイド講習会や干潟まつりの開催ができたことをうれしく思います。今後も和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるよう希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟をみんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています。」と開会の挨拶をしました。



役員

主な活動内容

会 鳥	ミヤコドリ
代 表	山本 廣子
事務局	
事務局長	松田 元
事務局次長	田浦征太郎 今林眞由美
会 計	山之内芳晴 田辺スミ子

観察会
クリーン作戦
干潟まつり
HP編集・通信
調査・写真
記録・会計
名簿・通信配布管理
助成金・監査
保全のつどい
山・川・海流域連携
資料点検

監 事	松尾 満子 秋山芽生子
-----	----------------



2023年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」、「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

2022年度決算と2023年度予算

2022年度決算

当期収入は198万円で、主な収入は会費29万円、寄付金64万円、助成金等93万円と事業収入が10万円です。当期は企業や個人から寄付金をいただきました。支出は185万円で、主な事業支出は通信、リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は13万円の黒字で、次年度への繰り越しは358万円となりました。

2023年度予算

当期収入は161万円を見込み、支出は190万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。



(単位：万円)

	2022年度 決算	2023年度 予算
当期収入	198	161
当期支出	185	190
収支差額	13	29
前期繰越金	345	358
次期繰越金	358	329

和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は新型コロナウイルス感染症が落ちつき前年よりは回復し、8回の実施となり、延べ408名の参加がありました。また昨年11月には4年ぶりに「和白干潟まつり」を開催し、約400名の参加がありました。



和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の15時～17時に、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に企業や学生を含む一般のボランティアと共に清掃し、清掃後には自然観察も実施しています。昨年は毎月定例のクリーン作戦のほかに観察会時の清掃も加えると年間15回行い、延べ737人が参加、727袋のゴミを回収しました。



和白干潟周辺の詳細の調査

環境省、NPO法人バードリサーチ、JEAN（クリーンアップ全国事務局）などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥9回、漂着ゴミ1回）



和白干潟の水質調査と砂質調査（毎月実施）

下の表は2022年10月から2023年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはCODが4の月もあり、改善傾向にあります。透視度は、風速・風向き・潮位に影響されます。砂質調査については、昨年アオサが発生しなかったことで改善しています。（表層酸化層が厚いほど砂質が良いことになります）

水質調査結果 (2022年10月～2023年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン (PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	5	5	4	4	4
亜硝酸 (NO ₂)	mg/l	0.005	0.01	0.01	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	35	30	25	20.5	45	61

砂質調査結果 (2022年10月～2023年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10 _㍍ 地点 表層酸化層の厚さ	mm	6	9	32	20	32	20
還元層の黒色度	—	14	13	13	12	13	12
150 _㍍ 地点 表層酸化層の厚さ	mm	17	29	38	40	43	38
還元層の黒色度	—	14	13	13	12	13	12

山・川・海の流域会議

和白干潟を守る会は、立花山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全することが必要だと流域の保全グループに呼び掛けて、2012年7月に「山・川・海の流域会議」が発足しました。立花山から和白干潟までの4団体と個人で構成しています。2か月に1回定例会を開き、2022年1月には「新春講演会」を開催し、10月には「唐原川お掃除し隊」を行いました。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

- 1/20 「(公財)社会貢献支援財団」様より寄付金を頂きました。
- 1/27 「日本ユネスコ協会連盟」様より応援金を頂きました。
- 2/24 「MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)」様より寄付金を頂きました。
- 3/20 「(公財)イオン環境財団」様より助成金を頂きました。
- 3/24 「あいおいニッセイ同和損保(株)」様より寄付金を頂きました。



和白干潟の春の自然だより (山本 廣子)

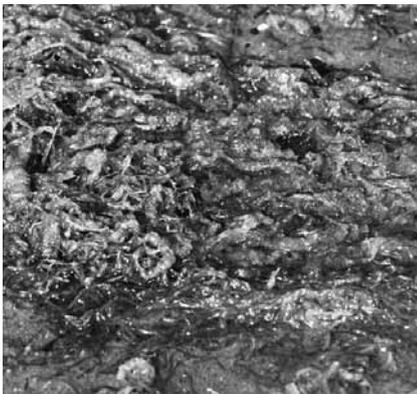
ノイバラ バラ科

春の和白干潟沿岸には、ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ツルナ、テリハノイバラなど可憐な花々が咲きます。ノイバラは、草原や川岸などに生える小低木です。高さは1～2mで、大きなやぶになります。全体にとげがあります。5月頃に香りの良い白い花がたくさん咲きます。和白干潟の樹林帯の縁に、ノイバラがたくさん生えており、花の時期には白い塊が遠くからも見渡せます。春の花として目立っています。



ノイバラ

ボウアオノリとオゴノリ (海そう)

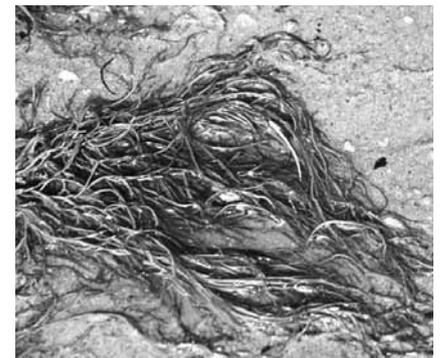


ボウアオノリ

昨夏の異常高温のためか、昨秋はアオサの異常発生がありませんでした。これまでアオサに押されていたのか、ボウアオノリとオゴノリが昨秋から比較的多く発生しました。春一番にボウアオノリが発生しますが、昨秋は秋冬共にボウアオノリが見られました。

異常な天候が干潟の生きものたちに影響しているのですね。オゴノリは和白干潟でも香椎海岸でも多く見られました。ボウアオノリは和白干潟沿岸に打ち寄せるほど多く見られました。どちらも食用になるそうですが、余り食べら

れていないようです。例年はアオサの大量発生で目立たなかったボウアオノリとオゴノリが、アオサが無い今冬は目立っていました。海そうは干潟に打ち上げられると、しばらくして腐っていくようで、ボウアオノリも少しずつ腐っていくようでした。しかしアオサのように多くは無かったので、クリーン作戦で回収できました。



オゴノリ

カモメ カモメ科



カモメ

カモメはカモメ科の鳥の総称でもありますが、その内の1種でもあります。和白干潟ではカモメ科の鳥たちの飛来が少なく、中でもカモメはほとんど見られませんでした。和白干潟の中でも雁ノ巣海岸では少し見られていました。カモメの仲間は冬鳥として和白干潟に渡ってきますが、今冬は1羽のカモメがずっといてくれました。カモメの仲間では全長44cmで小さい方です。嘴と足は黄色くて、目立った特徴は見られません。羽の灰色も薄い色合いです。しかしカモやミヤコドリやカワウに混じっていると、目立っており何の鳥かなと話題になりました。目は黒くて他の黄色い目のカモメの仲間のように怖い顔立ちではなく、優しい顔をしています。魚やゴカイやエビなどを食べるそうですが、たいていは干潟でじっとしており、採食のようすはなかなか見られません。おとなしい鳥の印象があります。

1月14日 山・川・海の流域会議主催「新春講演会」がありました



今年の新春講演会は、第10回を迎える記念の年ですが、第1回講演会で「唐原川のビオトープについて」の講演を頂いた九州産業大学教授の横山秀司先生に「立花山の地形と地質について」を講演していただきました。立花山は特別天然記念物のクスノキ原生林や戦国時代に多くの攻防を繰り広げた立花山城の史跡など、豊かな自然と歴史的資源を有する魅力ある山です。白岳、松尾山、立花山は約1億年前に形成され、隣の三日月山は約3.5億年～2.5億年前に形成されたそうです。また、立花山系には花崗閃緑岩（かこうせんりょくがん）が多く分布するそうです。立花山系にある白岳、松尾山、立花山は500万年前に浸食されて、小起伏面が形成され、その後隆起したものだとのことでした。（山之内）

3月1日 諫早湾干拓事業潮受け堤防「開門せず」確定判決

国営諫早湾干拓事業（長崎県諫早市）の潮受け堤防排水門の開門を命じた確定判決の「無力化」を国が求めた請求異議訴訟で、最高裁第3小法廷は、漁業者側の上告を退ける決定をしました。確定判決の効力は失われるとした国勝訴の福岡高裁判決が確定しました。他にも係争中の裁判はありますが、開門を認めない事実上の統一判断となります。この判断で「宝の海」と呼ばれた有明海の再生は、一層遠のく結果となりました。十分な調査もなく、無駄な公共事業を押し進めてきた国。国営事業で傷んだ海の再生を国はもっと進めるべきです。排水門の開門調査以外の方法があるのなら、発表してほしいですね。

博多湾人工島事業でも、税金を投入して自然を破壊し、できた埋め立て地を安く企業に売りさばいてきました。人工島事業が黒字でありその収益を子育て支援に使うということがどんなに矛盾に満ちたものか、福岡市も国と同じように無理やり思い通りに事業を進めてきました。政治の世界に市民の声は反映されないのでしょうか？

3月8日 あいおいニッセイ同和損害保険(株) 寄付寄贈式がありました

あいおいニッセイ同和損害保険（株）は環境保護活動の一環として、ペーパーレス保険証券やWeb約款を導入し、その契約件数に応じて環境保護活動を行っている団体を支援しています。2014年よりその寄付金を頂けることになり、2022年度も2023年3月8日に「和白干潟を守る会」事務所で寄付贈呈式が行われ、同社福岡支店の村山支店長から、山本代表が目録を頂きました。貴重な寄付金を和白干潟の保全のために、大切に使っていきます。



気が付いたらあなたも電話してください！

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局維持課）

沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154（港湾空港局みなと環境政策課）



傷ついた野鳥を見つけた時 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所（地域環境課）
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係

** お 願 い **

干潟でのゴルフの練習やラジコン・ドローン等を飛ばすことはやめましょう！とても危険です。
干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！
（ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止）



2022年12月

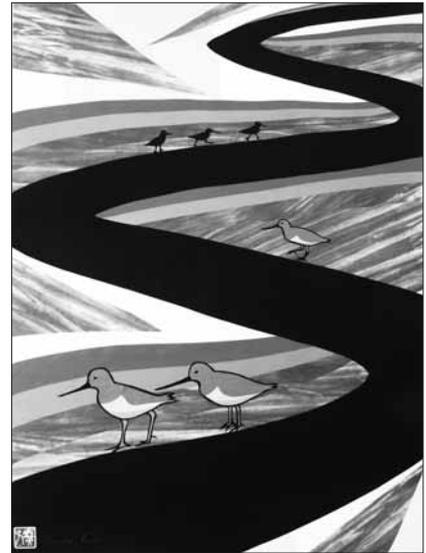
- 12/3 (土) バードウォッチングin和白干潟2022
- 12/4 (日) 2022年度冬期シギ・チドリ調査 1回目(今津)
- 12/6 (火) 第34回和白干潟まつり第3回実行委員会 / 観察会グループ会議
- 12/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/11(日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 12/13(火) 和白干潟通信144号編集会議
- 12/17(土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/20(火) 2022年度冬期シギ・チドリ調査 1回目(博多湾東部)
- 12/21(水) 事務所の大掃除

2023年1月

- 1/7 (土) 2022年度冬期シギ・チドリ調査 2回目(今津)
- 1/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 1/9 (月) 2022年度冬期シギ・チドリ調査 3回目(今津)
- 1/10 (火) 和白干潟通信144号発送会
- 1/17 (火) 観察会案内状発送会
- 1/18 (水) 和白海域 水鳥調査 / 2022年度冬期シギ・チドリ調査 2回目(博多湾東部)
- 1/21 (土) 山・川・海の流域会議「新春講演会」参加
- 1/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

2023年2月

- 2/4 (土) 中村学園大学と韓国留学生の和白干潟観察と清掃
- 2/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/10 (金) 会計監査
- 2/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会 福岡支部)
- 2/17 (金) 2022年度冬期シギ・チドリ調査 3回目(博多湾東部)
- 2/25 (土) 総会 / 臨時定例会議 / クリーン作戦と自然観察



きりえ「和白干潟もよう」

ご案内

第19回

くすだひろこ きりえ 展

和白干潟のふしぎ

日時：5月1日(月)～5月31日(水)

11:30～15:00

会場：レストラン「花もも」(日祝休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

和白干潟のきりえ作品を12点飾っています。

ご高覧をお願いいたします

干潟のつばやき「ハマボウが広がっている！」

ハマボウはアオイ科の落葉低木で関東以西の西日本に分布し、内湾海岸に自生する塩生植物です。和白干潟では牧の鼻に大きな群落があり、7月に入ると黄色の大きな花を咲かせます。牧の鼻のハマボウは、2003年に1本のハマボウの木を発見したことが始まりです。綺麗な花を咲かせるので「たくさん増えていけば良いのに」と思いますが、中々ほかの場所への広がりは遅く、10年程前には唐原川河口に1本幼木があるだけでした。しかしその後、生育領域はどんどん広がり、現在では唐原川河口、アシ原前砂洲、海の広場や和白4丁目海岸などにも拡散し、群落を形成しています。“こんなところに”と思わせるのが、アシ原の中の群落で、高さ2メートルほどの10数本の群落で、自然のたくましさを感じさせます。海の広場前にも1メートルほどの幼木は至る所に点在しています。何年か先には、海の広場は7月になると黄色のハマボウの花咲く風景が見られるでしょうね。



ハマボウの木

2 / 4 (土)中村学園大学と韓国留学生の自然観察とクリーン活動

穏やかな晴天でしたが寒さが心配だったので、初めの講義と終りのまとめは「きりえ館」で行いました。山本代表が韓国語で挨拶と自己紹介して始まりました。自然観察ではミヤコドリやツクシガモもいて、鳥の名前をそれぞれの国の言葉で教えあうなど賑やかでした。砂浜ではハマサジやハマニンニクの葉を、アシ原の中ではセンダンの葉痕や木の実が観察できました。砂浜の生活ゴミ等を拾いながら戻りました。まとめでは採取した植物や貝殻を紹介した後、私たちが海や自然を守るためにできることやプラスチックごみを減らすためにできる取り組みについて話し、最後に韓国にも和白干潟のような干潟が沢山あるので、守ってほしいと呼びかけました。



和白干潟と私 9 (保全活動)

1988年に福岡市は和白干潟の埋め立て中止を決定しました。しかし同時に和白干潟沖の人工島埋め立て計画を打ち出しました。和白干潟を守る会は人工島計画中止を環境庁に陳情し、博多港地方港湾審議会に人工島中止の8,000名の署名を提出し、「和白干潟の自然を守り市民の憩いの場とするための提案」を福岡市長に提出しました。国際水禽湿地調査局が「日本湿地目録」を刊行し、和白・今津(博多湾)が特に重要な湿地24にリストアップされました。1990年に「人工島計画再検討と博多湾の環境保全について」の要望書を福岡市長に提出するなど、活発に活動を続けました。1991年にはJAWAN(日本湿地ネットワーク)の結成に協力しました。また他のグループと「博多湾の豊かな自然を未来に伝える署名の会」を結成して、署名活動を展開しました(92年に博多湾市民の会に移行しました。)。こんな中、福岡市は「人工島計画」を公表し、1992年には福岡市主催「人工島建設市民意見発表会」が福岡市東市民センターであり、約半数が人工島反対意見を述べました。1993年には福岡市議会で「人工島計画」を可決し、運輸大臣に埋め立て認可申請をしました。1994年には筑紫哲也氏が和白干潟を訪問。博多湾市民の会で、人工島埋め立て工事等への公金支出差し止めを求める住民訴訟を福岡地裁に提起しました。1998年3月に判決が出て、住民側の訴えは退けられましたが、福岡市の環境影響評価がずさんだと指摘されました。

環境庁長官が人工島アセスの意見書で福岡市に厳しい注文を付けましたが、人工島埋め立て工事が着工されました。1994年7月の人工島工事着工で、和白干潟は死の海になるのではないかと危惧しました。工事の周りの海上には汚濁防止膜が設置されましたが、周辺の海には黄土色の泥が流れ出しました。この夏にはアオサが和白海域を覆いつくす勢いで繁殖して、和白海域全体が緑色に変わりました。秋には大量発生したアオサが腐り、ヘドロになって和白干潟を苦しめました。



署名活動

和白干潟から5kmも内陸にまで、ヘドロのくさい匂いが充満しました。住民の要望でアオサのヘドロはバキュームカーで吸い上げられましたが、手に負えませんでした。この時以来福岡市は船でアオサを巻き上げて回収し、人工島内部に捨てました。船でのアオサ回収は、3000万円の予算をつけて毎年実施しました。1995年には「人工島工事の中止とラムサール条約登録」の署名88,112名分を福岡市議会に提出しました。人工島建設で揺れた和白干潟でしたが、和白干潟を守る会は保全のためにできることを精一杯頑張りました。(山本 廣子)

守る会問い合わせ窓口

入会 / 観察会(申込等)
クリーン作戦
広報 / 調査 / 定例会議
干潟まつり

山之内 芳晴
田辺 スミ子
山本 廣子
松尾 満子

Tel 090-8412-2663
Tel 090-1346-0460
Tel/Fax 092-606-0012
Tel 090-9651-8489

ホームページ : <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>



お知らせコーナー

和白干潟のクリーン作戦のおさそい!

日時：4月22日(土) 15時~17時

「全国春のビーチクリーンアップ2023」「2023干潟・湿地を守る日」参加

・集合：和白干潟海の広場 (東区和白4丁目海岸)

・主催：和白干潟を守る会 ・問い合わせ：090-1346-0460 (田辺)

「唐原川を歩こう!」唐原川の植物や生きものなど自然を歩いて観察します。

日時：5月13日(土) 10時~12時

・集合場所：唐原西公園(495号線唐原橋交差点そば)

・主催：「山・川・海の流域会議」 ・問い合わせ：090-2397-1424 (松田)



昨年4月のクリーン作戦



2012年の唐原川を歩く企画

定例スケジュール

定例会議 (4/22, 5/27, 6/24)

毎月第4土曜日12時~14時 守る会事務所にて開催。

以下は参加自由です。仲間が待っています!

クリーン作戦と自然観察 (4/22, 5/27, 6/24)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会 (5/14, 6/11, 7/9)

毎月第2日曜日9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合

参加費：一般300円 中学生以下は無料 野鳥の会会員100円

主催：日本野鳥の会福岡支部

会員募集中!

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。

参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち (その101)

ヘラサギ (コウトリ目 トキ科 / White Spoonbill) 篋鷺 [全長86cm]



(写真撮影：三宅 僚)

情報不足(環境省) 絶滅危惧 B類(福岡県)

ヘラサギは冬鳥として和白干潟を訪れています。クロツラヘラサギとよく一緒に行動します。以前はほとんど訪れていませんでしたが、1990年代に観察されて以降少数が観察されています。ヘラサギよりクロツラヘラサギの方が渡来羽数は多いようです。今冬はよく和白干潟に来ました。クロツラヘラサギに比べて嘴の黒い部分が目まで続いておらず、目がはっきりとわかります。クロツラヘラサギより少し大きいです。水深が浅い所で嘴を左右に振り動かして魚などを採食していて、可愛いです。昼間はクロツラヘラサギと一緒に干潟で立って寝ていることが多く、なかなか顔を見ることができませんので、ヘラサギかクロツラヘラサギか区別が付きにくいのです。(山本 廣子)

【編集】田辺スミ子・松田元・今林真由美・松藤真理奈・山本廣子・山之内芳晴

《カット》「香椎保育所」のこどもたち・くすだひろこ

次号は2023年7月発行予定



【編集後記】最近の和白干潟は、アシ原のアシハラガニが少なくなったり、例年発生するアオサが発生しないなど、温暖化による気候変動の影響を受けているようですが、アサリ資源は回復し、沿岸のハマボウも生育領域を広げています。自然豊かな和白干潟が続きますように。(山之内)